かわ

2026.10.1

vol.271

Contents

「特定都市河川」指定へ …… P1～P2
ふくおか水辺の安全講座 …… P3
河川愛護街頭キャンペーン …… P4
河川功労者表彰 …… P5～P6
災害復旧の状況 …… P7～P8
ふくおかの身近な川といきものを知ろう/… P9～10
河川協会からのお知らせ



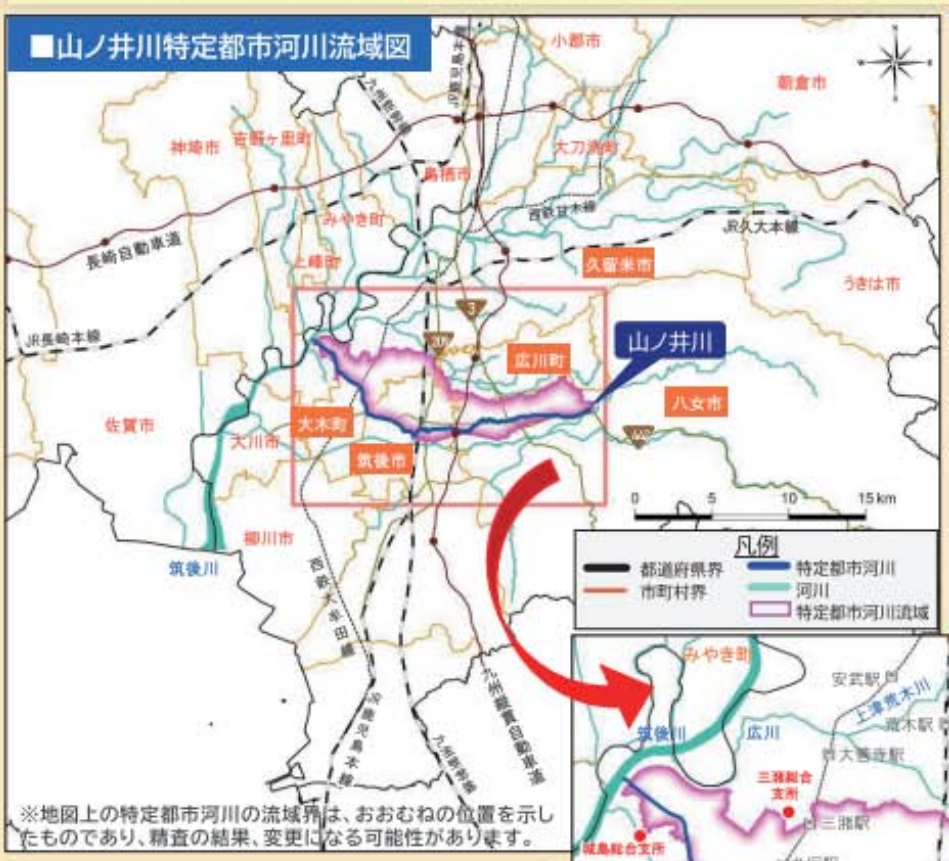
撮影場所：牛頸ダム(大野城市)

山ノ井川流域について

特定都市河川浸水被害対策法に基づき、

「特定都市河川」及び「特定都市河川流域」の指定を目指します。

「流域治水」 を推進し、「水害に強いまちへ！」







「特定都市河川浸水被害対策法」とは？

著しい浸水被害が発生するおそれがある都市部を流れる河川及びその流域について、浸水被害防止のための対策を推進する法律です。

特定都市河川ポータルサイト

なぜ「特定都市河川」「特定都市河川流域」の指定を目指すのか？

山ノ井川では、筑後川の水位上昇の影響を受けるといった自然的条件もあり、幾度となく浸水被害が発生しています。
また、気候変動の影響による降雨量の増加が予測されています。
このため「特定都市河川」の制度を活用し「流域治水」を強力に推進し、水害に強いまちを目指します。

「流域治水」とはなにか？

気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化を踏まえ、これまでの河川整備等に加え、流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で水災害対策を行う考え方です。

「特定都市河川流域」に指定されるとどうなるのか？

流域内の水害リスクを増やさないように、また、浸水被害対策の効果が減少しないように、宅地等以外の土地で行う雨水浸透阻害行為（雨水を浸みこみにくくする行為）に、貯留・浸透対策が義務付けられます。

特定都市河川に指定されると流域内で雨水浸透阻害行為を行う際は

許可が必要!!

雨水の流出抑制のため許可が必要な場合があります

- 特定都市河川流域内の**宅地等以外の土地**※1において、**1,000㎡以上の雨水浸透阻害行為**（宅地等※1にするために行う土地の形質の変更や土地の舗装、そのほか土地からの流出雨水量を増加させるおそれのある行為）を行う際は、**福岡県知事または久留米市長の許可**※2が必要になります。
- 許可にあたっては、技術的基準に従った**雨水の流出抑制対策**が義務付けられます。
- 許可を受けずに雨水の流出量を増加させるおそれのある行為を行った場合は、**罰則**があります。

※１　「宅地等」とは、利用形態が宅地、駐車場、太陽光発電、資材置き場、水路、ため池、道路など
「宅地以外の土地」とは、利用形態が林地、耕地、原野、山地など

※２　雨水浸透阻害行為を行う土地の区域が、久留米市内は「久留米市長」の許可、その他の市町内は、「福岡県知事」の許可が必要となります。

このような、雨水浸透阻害行為（1,000㎡以上の場合）を行う際には・・・

例えば 耕地など締め固められていない土地に 建物を建てる



例えば 耕地など締め固められていない土地に 駐車場を作る



例えば 林地など締め固められていない土地に 太陽光発電を作る



例えば 原野など締め固められていない土地に 資材置場を作る

※整地（締固め）が伴う場合

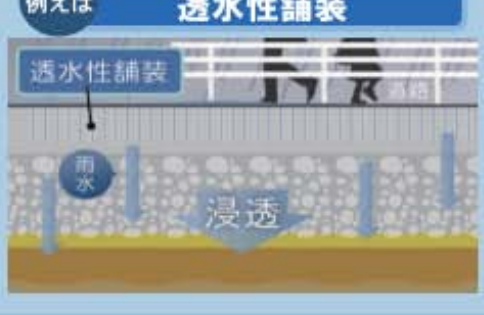


雨水を貯留したり浸透させたりする対策が必要です

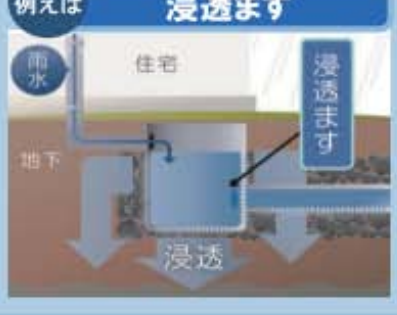
例えば 雨水貯留施設



例えば 透水性舗装



例えば 浸透ます



問い合わせ先／福岡県 県土整備部 河川整備課　TEL 092-643-3691

令和8年度

「ふくおか水辺の安全講座」開催

川は人々の生活に使われたり、心に安らぎを与えたりする場である一方で、急激な増水や流れが激しい場所など様々な危険が潜んでいます。

福岡県では、平成20年に兵庫県都賀川で発生した水難事故を受けて、小中学生を対象とした「ふくおか水辺の安全講座」を平成21年度から毎年開催しており、今年度は6箇所で実施いたしました。

●開催日と会場

7月下旬から8月上旬にかけて、下記6箇所で「ふくおか水辺の安全講座」を開催しました。

No	開催日	会場	河川名
1	7月25日（土）	北九州市立今町市民センター(北九州市小倉北区今町3-19-2)	紫川
2	7月27日（月）	福岡市立横手中学校(福岡市南区横手4-16-1)	那珂川
3	7月31日（金）	八女市立黒木西小学校(八女市黒木町本分38-1)	矢部川
4	8月　2日（日）	福津市南町公民館(福津市西福間3-39-1)	西郷川
5	8月　4日（火）	古賀市立古賀西小学校体育館(古賀市天神7-4-1)	大根川
6	8月　8日（土）	糸島市川付公民館(糸島市川付795-3)	長野川

●開催状況

講座では、ライフジャケットやヘルメットを着用し、実際に川でロープを使ったレスキュー方法などを体験したり、川の生き物調査やカヌー乗りを体験したりしながら、川で安全に遊ぶ方法を学びました。

また、屋内では動画を観て、川の危険箇所を学習しました。

●開催講座紹介



レスキューロープを体験しました。



浮いて川の流れを体験しました。
（浮いて待つ）



動画を観て川の危険箇所を学習しました



カヌーを体験しました。





いろいろな生き物を捕まえ観察しました。

街頭広報キャンペーン

河川環境の保全と県民生活の中で占める河川の重要性を啓発し、河川を安全に適切に利用、また、管理していく機運を高めるため、広く県民に向け、7月を河川愛護月間とし、各種事業を実施しています。

この河川愛護事業の一環として、県内を福岡・北九州・筑豊・筑後の4つの地域に分け、街頭でちらし等の配布、懸垂幕・ポスターの掲示等、河川愛護意識の啓発活動を行っています。



	実施日	実施場所	配布物品
福岡ブロック	7月28日（火）	福岡市天神周辺	河川愛護月間チラシ うちわ ポケットティッシュ
北九州ブロック	7月30日（木）	北九州市小倉駅	ポケットティッシュ
筑豊ブロック	7月23日（木）	ゆめタウン飯塚	ポケットティッシュ
筑後ブロック	7月中	筑後川防災施設 「くるめウス」	うちわ

※筑後ブロックは筑後川防災施設「くるめウス」に配布物品を設置

活動の様子









河川功労者表彰

令和8年7月29日（水）、福岡県河川協会通常総会の席上において、河川功労者の表彰式が行われました。

河川功労者とは、河川の機能保全、改善のために力を尽くし、その功績が顕著な個人並びに団体を、各市町村、各県土整備事務所からの推薦によって決定しています。

令和8年度に、河川功労者として福岡県河川協会長表彰を受賞されたのは、2個人、12団体の方々でした。












福岡県河川協会長表彰

◆室見川水系油山川河川を守る会 様
（福岡市）
対象河川：油山川

◆柿木原河川を守る会 様
（福岡市）
対象河川：椎原川

◆米多比川児童館地区をきれいにする会 様
（古賀市）
対象河川：米多比川

◆米多比川小学校地区をきれいにする会 様
（古賀市）
対象河川：米多比川

◆吉崎　隆一 様
（久留米市）
対象河川：中牟田川

◆髙尾　忠男 様
（久留米市）
対象河川：筑後川

◆おおむた環境ネットワーク 様
（大牟田市）
対象河川：諏訪川

◆飯之倉環境美化協議会 様
（宮若市）
対象河川：倉久川

◆岩岳川美化戸津田会 様
（豊前市）
対象河川：岩岳川

◆石原角田川会 様
（豊前市）
対象河川：角田川

◆土屋自治会佐井川河川をきれいにする会 様
（吉富町）
対象河川：佐井川

◆高山地区河川を守る会 様
（八女市）
対象河川：辺春川

◆一條区河川を守る会 様
（広川町）
対象河川：広川

◆第15区自治会河川愛護会 様
（北九州市）
対象河川：新栄盛川

～河川愛護団体の皆様へお知らせ～

「リモコン式草刈り機」の貸出を行っています！

福岡県では、河川愛護団体の皆様の負担軽減のため、リモコン式草刈り機の貸し出しを行っています！詳細については、下記の県土整備事務所へお問い合わせください。

○貸出している草刈り機（例）

【ラジコン草刈り機オーレックスパイダーモアーRC】
- 全長970mm×幅915mm×高さ580mm
- 重量138kg　　※軽トラックに積載可能！
- 刈幅530mm、作業能率1.4反/時（直進時）
- 最大傾斜45°対応

※県土整備事務所によっては異なる機種がある場合があります。



○配備している県土整備事務所

県内15県土整備事務所（福岡（前原支所）、久留米、南筑後（柳川支所）、直方、京築（行橋支所）、朝倉、八女、北九州（宗像）、田川、飯塚、那珂）

令和7年8月の大雨の概要および災害復旧関係事業について

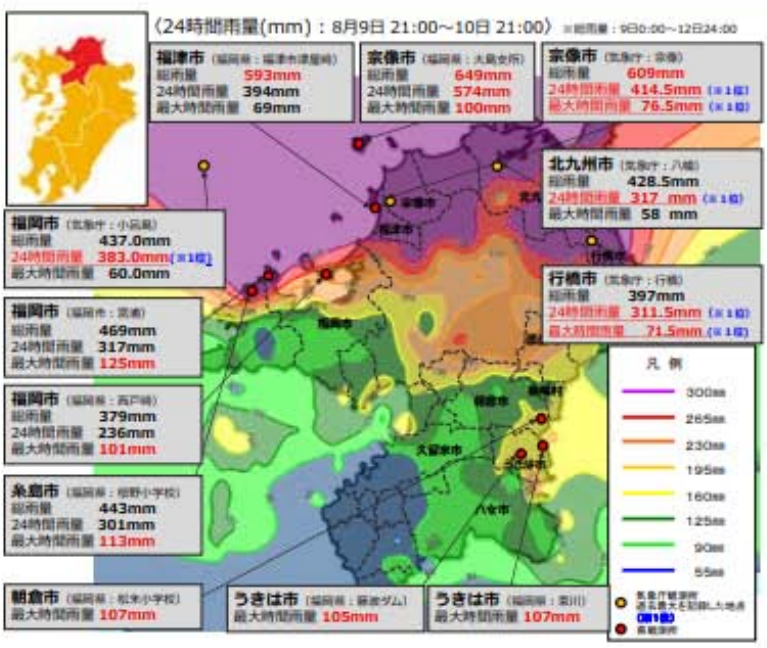
気象状況

令和7年8月の大雨では、8月9日から12日にかけて県内全域で6回の線状降水帯が発生し、猛烈な雨や非常に激しい雨が断続的に降り続きました。

福岡地方や北九州地方の沿岸部を中心に、総雨量が600ｍｍを超える記録的大雨となりました。

県内の7観測所で、最大時間雨量が100ｍｍを超える雨量を観測しました。

この大雨により、宗像市、福岡市、北九州市及び行橋市で24時間雨量や1時間雨量が観測史上最大となりました。



令和7年8月の大雨　降雨状況

災害復旧関係事業について

災害復旧事業は、洪水などの異常な天然現象によって被災した公共土木施設を早期に復旧することを目的としています。

1.原形復旧

災害復旧事業は「原形復旧」を原則とし、施設が元々有していた効果を発揮できるように復旧します。

令和7年8月の大雨で発生した原形復旧箇所は、県工事で73箇所、市町村工事で90箇所の計163箇所で、順次事業を実施しています。

R7樽見川　災害復旧工事（宗像市）

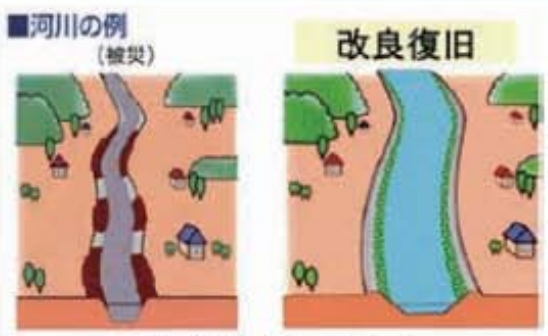




2.改良復旧

原形復旧だけでは再度災害の防止が十分でない場合、被災箇所の復旧に併せて河川の拡幅や河床の保護などの改良を加えて復旧を行います。

令和7年の大雨により甚大な被害が発生した福津市の西郷川水系の本木川で改良復旧事業を実施します。



改良復旧イメージ



改良復旧事業　位置図

ふくおかの身近な川といきものを知ろう！

日比野友亮（ひびのゆうすけ）

九州固有のナマズ　アリアケギバチ

アリアケギバチは世界で九州にのみ生息する淡水魚類です。九州にはセボシタビラやオオヨドシマドジョウなど、さまざまな固有種、亜種の淡水魚類がいることが知られていますが、九州6県のすべてに分布するのは本種だけです。ナマズの仲間で、口のまわりにヒゲがありますが、ナマズでは2対（生後まもない幼魚では3対）なのに対し、アリアケギバチでは上顎に2対、下顎に2対の計4対（8本）あります。またナマズの場合背中には小さな背びれがひとつあるだけですが、本種には背びれのほかにもうひとつのひれ、脂びれがあります。背びれと胸びれには硬くするどい棘（きょく）があり、掴む時には注意が必要です。こうした特徴は本種が属するギギ科に共通するものです。

九州にはもう1種、ギギという別のギギ科の魚が棲んでいます。ギギの自然分布は福岡県北東部から大分県瀬戸内海側に限られていますが、後述するように九州の他の場所でも見られるようになっています。アリアケギバチとギギもよく似ていますが、両者は尾鰭の切れ込みの深さのちがいによって簡単に区別できます（図1）。体の大きさにもちがいがあり、ギギの方がより大きくなります。ふつうにみられるアリアケギバチは大きいものでも全長15 cm程度ですが、ギギでは20 cmをふつうに超えます。ただし、アリアケギバチでも稀に25 cmを超える大型の個体に遭遇することもあります。アリアケギバチは体にある鮮やかな黄色の横斑が特徴的ですが、この黄斑は大型の個体ではあまり目立たなくなります。

アリアケギバチの採集は、本種が安定して生息しているような環境であればさほど難しくはありません。特にその年生まれの幼魚であれば岸際の植生の根際あたりに潜んでいることが多く、丁寧に探ればタモ網に入ってきます。大型の個体は岩盤の隙間や巨石の下、深い淵のえぐれた場所などに入っているので、小型のものに比べて観察が難しいと言えます。

アリアケギバチが面白いのは、その生息環境の多様さです。九州各地で本種の生息地を見てみると、巨石巨礫によってステップ状の構造が形成されるような河川中流域や、大きな岩盤の深い淵の連続するような環境、そうかと思えばいわゆる里山的な環境にある小川や、流れのほとんどないような農業用水路にもみられることがあります。筑後平野で聞き取りをすると、昭和30年代以前には広い範囲で農業用水路や田んぼの溝でもみられた身近な魚だったようです。

本種の繁殖期は初夏で、植生の根のえぐれたようなところのほか、巨岩や礫の深い隙間のような環境を利用します。河川の場合では、植生が豊富で、多少の石や礫もあるような、瀬と淵が発達するような場所です。逆に言えば、こうした環境がなければ本種は生きてはいけないということです。近年は多自然型の工法が普及し、景観上は生物に配慮されたように思える場所が増えています（図2）。ただし本種の産卵特性を踏まえると、護岸斜面が河床にまで達しているような形状のものでは生息が難しいですし、表面に石垣風の護岸を施したとしても本種が営巣することはできません。河床そのものについて

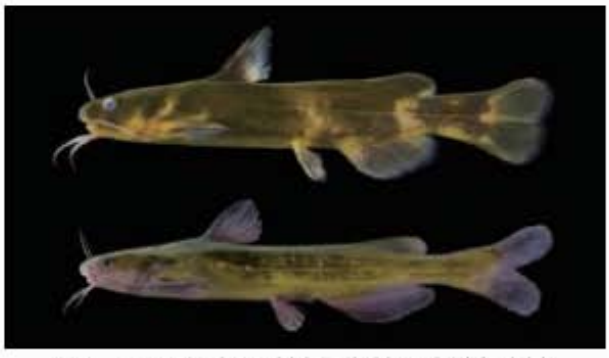


図1　アリアケギバチ（上）とギギ（下：今川水系産）
ギギは死ぬと体が黄色みを帯びることが多い



図2　親水的な護岸が施された水路。景観上は豊かに思えるが、実態としては石積みの隙間や河床の巨礫、また深みがなくなり流れの速い一様な砂の水路へと変化している

も、川底を限界まで掘り、瀬-淵の連続するような構造を失わせるような浚渫が続けられている以上、本種は減っていくばかりです。

矢部川水系では本種が河川よりも廻水路（註）に多く出現し、中でも水際に植生が繁茂している場所でより多く出現する傾向が明らかにされています（図3）。旧来は筑後川水系でも水路ネットワークが本種の生息に重要な役割を果たしていたと思われます。しかし、従来の石積み護岸がコンクリートに変わっていく過程で、本種のすみかには適さなくなってきたのです。矢部川水系でも廻水路の改修が進んでおり、今後の減少が心配されています。

アリアケギバチはかつて、福岡市を流れる那珂川のほか、樋井川や室見川にも生息していました（図4、5）。ただし、急速に進んだ都市化の過程で見られなくなったと考えられます。博多湾流入河川で唯一の生息河川となった那珂川でも、かつてはうどんのだしに使われるほど普通に採れる魚だったようですが、現在では上中流部のわずかな区間に少数個体が生き残っているにすぎません。今のところ絶滅するような状況にはないようですが、河川改修だけでなく、渇水や洪水などの自然現象が命取りになる可能性があります。

アリアケギバチには、もうひとつ深刻な問題が起きています。ギギによる置き換わり現象です。アリアケギバチの生息する水系には元々ギギはいませんでしたが、筑後川水系では少なくとも2000年代初頭までに侵入し、今やほとんどの主要な支流に侵入しています。アリアケギバチとギギの相互の関係については十分研究されていませんが、実際にギギが採れるようになった場所ではアリアケギバチがみられなくなります。ギギが侵入する前、筑後川本流の中流部（現在の朝倉市～久留米市、図6）ではアユの刺し網に邪魔になるほどかかるような状況だったそうですが、今となっては網に掛かるのはすべてギギです。県内でギギが侵入しているのは今のところ筑後川水系だけですが、矢部川にも侵入した場合、絶滅のリスクは一気に跳ね上がります。

ほとんどの場所でギギに置き換わってしまった筑後川水系では、小石原川の上流部だけにアリアケギバチが生き残っています。小石原川でも下流側にはすでにギギが侵入していますが、この生息地の下流には魚道のない高い堰堤があり、この堰堤がギギの侵入を防いでいます。通常、堰堤は魚類を含む水生生物の行き来を遮断するほか、河床材料の流下を阻害するため悪者扱いされがちですが、下流側に外来種が侵入している場合には、むしろ物理的な障壁として機能することもあるので、その改修や撤去、魚道整備には慎重になる必要があります。

（註）矢部川を挟んで藩領をもっていた柳川藩と久留米藩が互いの利水のために築造した水路で、堰堤を介して矢部川から引き込んだ水を再び矢部川へと戻す構造になっている。土木遺産としても重要。



図3　植生が豊富な矢部川水系の廻水路。植生のみならず石・礫の存在や水深・流速の多様さ（特に緩流部の存在）も重要だと思われる



図4　かつてアリアケギバチが生息していた、樋井川水系の用水路は暗渠になっている



図5　那珂川中流部では河床から礫がほとんどなくなり、岩盤が露出している。ここでもかつて、アリアケギバチが普通に見られた



図6　筑後川のかつてのアリアケギバチの多産地。現在では沢山のギギが生息している

日比野（ひびの）　友亮（ゆうすけ）
－ YUSUKE　HIBINO －

●北九州市立自然史・歴史博物館　学芸員　●九州大学総合研究博物館　協力研究員
●日本魚類学会　編集委員
主な著書／■魚類　福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック2024（2025）
■緑の火山島 口永良部島の魚類図鑑（2017）（共編）

河川協会からのお知らせ

令和８年度　福岡県河川協会通常総会

福岡県河川協会通常総会が、7月29日（水）福岡市内の福岡リーセントホテルにおいて開催されました。市町村長等73名の出席のもと令和8年度予算案等について審議が行われ、いずれも原案どおり承認されました。

また、福岡県では「平成29年7月九州北部豪雨」以降、度重なる豪雨災害に見舞われ、昨年も甚大な被害が発生しているため、国等への要望決議案が採択され、後日、国土交通省及び地元選出国会議員の方々に陳情・要望することとなりました。

その後、河川功労者の表彰式が行われ、最後に福岡県県土整備部河川管理課長から河川事業について説明が行われました。



「第23回　ふくおか水もり自慢！」のおしらせ

平成16年から毎年開催しており、今年度で23回目を迎えます。

今年度は、北九州地区で開催予定です！

皆様のご参加をお待ちしております！

詳細な内容が決まりましたら、福岡県県土整備部河川整備課のHPに掲載します。

（URL：http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4800724/）

ふくおか みちとみずべの大掃除を実施します！

～県民参加による河川美化活動～



福岡県では、毎年10月をクリーンリバー推進期間としており、第4日曜日を統一活動日と定め、県内で河川の一斉清掃を呼びかけています。

ふくおか みちとみずべの大掃除は、下記のとおり実施します。

日　時　令和8年10月25日（日曜日）　**実施場所**　行橋市内（清地大橋～京都橋）

お問合わせ　参加を希望される方は、福岡県県土整備部河川管理課　管理係までお問合せください。

TEL：092-643-3666　FAX：092-643-3669

https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/mizubeoosouji.html

（お詫び）

7月発行、270号の表紙の撮影場所に誤りがありました。

正：平成筑豊鉄道伊田線中元寺川橋梁（福智町）

誤：平成筑豊鉄道伊田線中願寺川橋梁（福智町）

編集後記

ついに福岡県内でも酷暑日を記録するなど、今年も暑く、苦しい夏でした。また、令和8年熊本地震で甚大な被害が発生しました。一日も早い復旧・復興をお祈りするとともに、自分ができる被災地支援の方法を見つけたいと思います。　（植村・北川）

◆STAFF

発行・編集　福岡県河川協会（福岡県県土整備部河川管理課内）
〒812-8577　福岡市博多区東公園7-7
TEL：092-633-2826（直通）
FAX：092-643-3669

企　　画　アロー印刷株式会社

福岡県河川協会ホームページ

https://www.fukuoka-pref-kasen.jp/kasenkyokai/